

総理大臣杯争奪「第46回西日本実業柔道団体対抗大会」  
対戦記録と戦評

男子第三部

昨年28チームが39チームに増えた男子第3部は、混戦が予想されたが、古豪新日本製鐵と初出場の巨漢選手揃いの日経サービスが順当に勝ち上がった。新日本製鐵は、中量級選手の機敏な動きで日経サービスの大型選手を翻弄し、実に27年ぶりに8回目の優勝を飾った。第3位は新日鐵八幡と初出場のJ・S・F。

入賞は、本大会開催当初から出場の古豪チームと新鋭チームで二分され、新旧の勢力競演の場となった。

【準々決勝戦】

十全会十全病院 0 - 3 新日本製鐵

(先鋒) 上野雅史 2段 内股 高橋慶一 4段

(中堅) 松岡晃史 2段 優勢固  中村嘉宏 3段

(大将) 桑原隆将 初段 横四方固 吉岡正人 4段

新日鐵八幡A 2 - 1 十全会回生病院B

(先鋒) 池崎 巧 2段  優勢勝 迫田裕一 2段

(中堅) 中島弘司 2段 合せ技 泉 雄喜 初段

(大将) 川村一之 2段 払腰 吉田岳文 3段

戸高鋳業社 0 - 3 J・S・F

(先鋒)	出口嘉之	2段	横四方固	宋 廣鑫	3段
(中堅)	園田守久	初段	小外掛	植田哲也	3段
(大将)	崎村宋一郎	2段	内股透	西林拓史	2段

大阪拘置所 0 - 3 日経サービス

(先鋒)	田上賢三	3段	優勢固	☉	尾身谷竜一	3段
(中堅)	井上直樹	3段	優勢勝	☉	大町奨志	2段
(大将)	永田泰敏	3段	横四方固		河野臣宏	3段

#### 【準決勝戦第1試合】

新日本製鐵 2 - 0 新日鐵八幡

(先鋒)	高橋慶一	4段	横四方固	池崎 巧	2段
(中堅)	中村嘉宏	3段	引分	中島弘司	2段
(大将)	吉岡正人	4段	合せ技	北井知仁	2段

先鋒戦。開始1分5秒、高橋の攻撃に池崎は崩され畳に伏せる。高橋そのまま寝技で攻め、横四方固で一本。

中堅戦。両者技らしい技が出ず、共に指導3を与えられ、引分。

大将戦。吉岡、組み手を制して攻勢に攻める。1分25秒北井に指導1。吉岡は、1分47秒大外刈で効果を奪う。続いて2分12秒には支釣込足で技あり。そのまま縦四方固で押さえる。

## 【準決勝戦第2試合】

J・S・F                    1                    -                    2   日経サービス

(先鋒)	宋 廣鑫	3段	合せ技	尾身谷竜一	3段
(中堅)	植田哲也	3段	小外掛	大町奨志	2段
(大将)	西林拓史	2段	朽木倒	河野臣宏	3段

先鋒戦。体格に勝る尾身谷が、1分54秒内股で有効を奪った後、2分45秒には同じく内股で技ありを奪い、そのまま袈裟固で一本。

中堅戦。2分ジャストに大町が小外掛から身を捨てて、宋を背中から畳に打ち据える。

大将戦。開始早々(10秒)の西村の朽木倒に、西村の体は宙に浮いて、そのまま落下。一本。

## 【決勝戦】

新旧入り交じる第三部は、古豪同士、新鋭チーム同士が激突した準決勝戦を制した新日本製鐵と日経サービスとの対戦となった。

新日本製鐵                    2                    -                    0   日経サービス

(先鋒)	高橋慶一	4段	腕挫十字固	尾身谷竜一	3段
(中堅)	中村嘉宏	3段	引分	大町奨志	2段
(大将)	吉岡正人	4段	横四方固	河野臣宏	3段

先鋒戦。高橋左組み、尾身谷右組み。高橋74kg、尾身谷130kg。対照的な両者の対戦は、高橋の動きに尾身谷は終始翻弄される。十分な組み手になれないまま、散發で技を掛けるも効果なく、技の止まった1分6秒に尾身谷に指導1が与えられる。その後、内股が潰れ畳に伏せた尾身谷を、高橋が上から送襟絞で攻め、これを逃れるため体を入れ替えようとした瞬間、高橋が尾身谷の右腕を抱え、腕挫十字固に移行すると、尾身谷はたまらず、高橋の体を

叩き「参った」の合図。1分50秒、新日本製鐵先制。

中堅戦。左右の喧嘩組み手の両者の戦い。組み手争いで中村が有利に戦いを進める。大内刈等足技で大町を揺さぶるも大町よく守る。一方の大町も技らしい技が出ず、時間が経過しブザー。引分ける。

大将戦。左右の喧嘩組み手による組み手争いも、組み勝った吉岡が河野を圧迫する展開。1分、吉岡は試みた巴投が不発となるが、畳に背を付けた姿勢のまま、左足から入れ替えた右足を相手の腹部を乗せると共に、相手の左ふくらはぎ辺りのズボンを握り、そのまま河野を頭越しに自らと共に、一回転。隅返しにより「効果」を奪った吉岡、そのまま河野の上に乗って、横四方固にがっちり押さえ込む。

重量級を揃えた日経サービスに対し、新日本製鐵は中量級の先鋒、大将二人が相手に体格負けしない素早い動きと、立ち技から寝技へのコンビネーションが巧みで、日経サービスを翻弄。8回目、昭和54年(1979年)以来、実に27年ぶりの優勝を飾る。